

なまえ

キーンコーンカーンコーン。

「これから三時間目の図工の学習をはじめます。」

「はじめます。」

「さあ、今日はノコギリで木を切って、好きなものを作るよ。ノコギリを取りに来てくださーい。」

先生の声に、みんながいつせいに動き出します。

「わーい！ノコギリだ！」

「わあ！ピカピカの発見！」

「新しいのゲット！」

カゴの中にあつたきれいなノコギリは、すぐになくなってしまいました。

たつきくんの目の前に残ったのは、とても古いノコギリだけでした。

「ぼくのだけ、ボロボロだ・・・」

(つづく)

次の問いに答えましょう。

① 「キーンコーンカーンコーン」は、何時間目のチャイムですか。

時間目

② 今日は何をして、好きなものを作りますか。

で

、好きなものを作る。

③ 「ぼくのだけ、ボロボロだ・・・」の「ぼく」はだれのことですか。

なまえ

古いノコギリは、刃が茶色にさびて、持ち手も真っ黒です。

「なんんだか、はずかしいな。こんなのでうまく作れるのかな。」  
たつきくんがしょんぼりとうつぶいた、そのときでした。

「おっ、そのノコギリ、ベテランさんだね!」

後ろから声をかけたのは、ゆうじくんでした。

「ベテラン・・・?」

「うん! ずっと前から、たक्सンの木を切ってきたってこと。だから、  
すごく頼りになるよ。」

ゆうじくんはそう言うと、自分ももう一本の古いノコギリを手に取り  
ました。

(つづく)

次の問いに答えましょう。

① 「古いノコギリ」は、どんなノコギリですか。

刃が

にさびて、持ち手も

なノコギリ。

② たつきくんがうつむいたとき、後ろから声をかけたのは、誰ですか。

③ ゆうじくんが、古いノコギリを「ベテランさん」と言ったのはなぜですか。

ずっと前から、

を

ノコギリだから。

なまえ

二人の手には、古くて黒っぽいノコギリ。

それを見ていた周りの子が、不思議そうに言いました。

「ねえ、あんなに古いので大丈夫？本当に切れるの？」

たつきくんは、ドキドキしながら木に刃を当てました。

「ベテランさん、お願い・・・。」

ゆっくりと腕を動かします。

ギコ。

ギコ、ギコ。

「わあ、すごい！スルスル切れる！」

古いノコギリは、まるで魔法みたいに面白いほどよく切れます。

(つづく)

次の問いに答えましょう。

① 不思議そうに言ったのは、だれですか。

それを見ていた

② たつきくんは、ドキドキしながら何をしましたか。

③ 古いノコギリは、どのように切れますか。

まるで

みたいに

よく切れます。

なまえ

「本当だ、僕のもだ！」

ゆうじくんも、うれしそうに木を切っています。たつきくんは、自分のノコギリをじっと見つめました。さっきまで「恥ずかしい」と思っていた傷や汚れが、今は「ずっとがんばってきたしるし」に見えてきました。

「かっこいいや、ベテランさん。」

そこへ先生がやってきて、二人のノコギリを交互に見て言いました。

「『ベテランさん』か。なんだかとっても頼もしそうだね！」

先生がにこっと笑うと、教室の中にやわらかい空気が広がりました。

「よし、いいものを作るぞ！」

たつきくんは、持ち手をぎゅっとなぎりました。

(つづく)

次の問いに答えましょう。

①うれしそうに木を切っているのは、だれですか。

②「がんばってきたしるし」とは何のことですか。

や

③先生は、二人のノコギリを見てどう思いましたか。

とっても

だと思った。

なまえ	
-----	--

ギコ、ギコ、ギコ。

手には、木を切る力強いリズムが伝わってきます。次はトントンとくぎを打って、どンドン組み立てていきました。そして、ついに・・・。

「できた！」

できあがったのは、空までのびそうな、高い高い木のタワーです。少し形はいびつだけど、どこまでもまっすぐ力強く立っています。

たつきくんは、自分の作品をそっと見上げました。使い込まれたノコギリは、机の上で誇らしげにキラリと光っています。

「ありがとうございます。」

たつきくんの胸の中に、静かな自信が広がりました。もう、少しも恥ずかしくなんてありません。  
(おしまい)

次の問いに答えましょう。

① 木を切る音とくぎを打つ音をそれぞれ書き抜きましょう。

木を切る音

くぎを打つ音

② たつきくんの作品は何ですか。

高い高い

③ たつきくんの胸の中に、何が広がりましたか。

静かな